



広報 わかさ

No.114 2014. 10



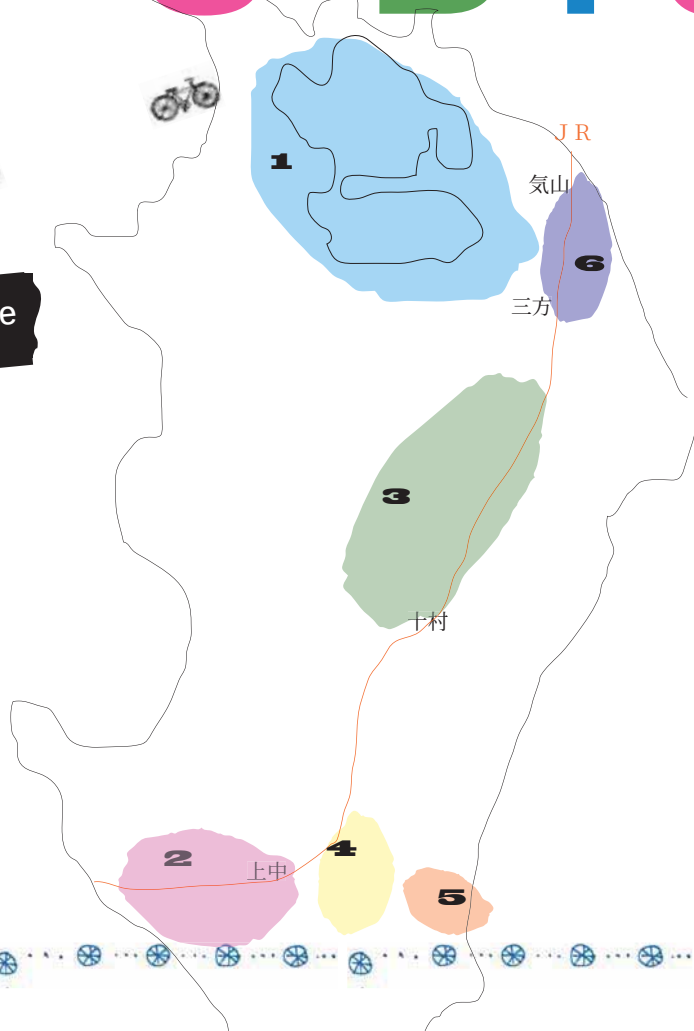
ひとたび漕ぎ出せば、新しい世界に連れて行ってくれる“自転車”。

眠らせておくなんてもったいない。

サイクリングが楽しい若狭町の秋の風、感じに行こう！

いつもの景色にささやかで大きな発見を。

LET'S Bicycling





ciclewakasa

1 “ぐるっと湖”コース

縄文ロマンパークをスタートし、梅街道へ。

虹岳島温泉の看板を左折し、浦見川を越えて三方五湖サイクリングロードへ入ります。梅林を抜け、木漏れ日が気持ちいい、水面をすぐそばに感じながら、快適に走ることができます。虫の音がすぐそばで聞こえ、たくさんの自然を肌で感じることができます。

ホテル水月花へ抜け、湖上館パムコを左折。西田の梅林を眺めながら、縄文ロマンパークへ帰ってきます。水月湖を反時計回りに、ずっと湖を左手に感じながら走れます。

寄り道してウナギやイカ丼など、おいしいものを食べるのもいいかもしれません。疲れた体はきらの湯で癒しましょう！

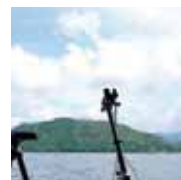
◇所要時間：ゆっくり走って約2時間（約20km）

1. 縄文ロマンパークからスタート！
2. サイクリングロード。梅林や林を抜けて…
3. 梅街道。舞若道の高架の下を潜り抜け～♪
4. 木漏れ日が気持ちいい…
5. 浦見川が真下に！
6. 途中には展望台も☆
7. 遊覧船に手を振ってみる♪
8. コースを案内してくださった、自転車愛好家の反田和宏さん（熊川）。「無理をせず、軽めのギアで楽に漕ぐ方が有酸素運動になってオススメです」とのこと！
9. 伊良積の舟小屋

※三方五湖サイクリングロードは災害復旧工事のため、浦見川歩道橋から海山方面へ向かう約20mが10月中旬から12月末まで全面通行止めとなる予定です。ご注意ください。



With: Kazuhiro Tanda



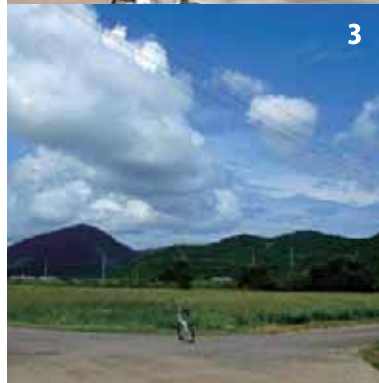


2 “北川とともに” コース

上中駅から出発し、井ノ口の集落の中へ。そして天徳寺へ向かいます。天徳寺の交差点を渡って集落内の道を神谷・日笠方面へ。好きな交差点を右折するとＪＲと北川の中の町道へ出られます。高架をくぐってもよし、小さな踏切を渡るのも楽しいかも…。見通しがよいので、どの道を選んでも迷子にはなりません。稲の香りを感じつつ走れます。

町道から北川の堤防へ上がったら、整備された川沿いの道を上中駅方面へ走りましょう。北川の堤防からの見晴らしは最高！！

◇所要時間：ゆっくり走って１時間弱（約 7km）



1. 上中駅からスタート！
2. 天徳寺の交差点には古墳が
3. 分かれ道。どちらへ行こうか迷う～
4. 爽快なまっすぐの町道♪
5. 踏切を渡るもよし、高架をくぐるもよし…



まだまだ！みんなに聞いたオススメコース

- 3** 向笠～田名～佐古～藤井～十村～岩屋
のどかな田んぼ道で走りやすく、裏道がたくさんで楽しい！電車もすぐ近くを走ります。
- 4** かみなか農楽舎～安賀里の諦應寺～脇袋の古墳群～関の楊貴妃桜
景色を楽しむなら春もオススメ。
- 5** 観光気分で熊川宿～さらに川沿いに坂道を上がってやまびこまで
ハードだけれど達成感があります！
- 6** 美浜町の久々子湖畔～気山駅～旧国道沿いを走って三方庁舎まで
味のある旧丹後街道沿い。町の境目の看板も。ぜひカメラをお供に☆



自転車のルール & マナー

1「自転車って歩道を走っちゃダメなの？」

自転車は車両ですので車道を走るのが原則です。
歩道は原則として歩行者専用ですが、
標識などで自転車走行が認められていれば通行できます。
車道や交通の状況でやむを得ない場合は歩道走行が認められます。
運転者が13歳未満の子ども、70歳以上の高齢者や
体の不自由な方の場合は歩道を通れます。
歩道では、歩行者に危険がないように徐行しましょう。

2「自転車も車と同じく、左側通行ルールを守ろう」

車道では常に左側端に寄りましょう。
車道で右側通行すると、左側通行を守っている自転車と正面衝突します。あわてて衝突をさけようとした自転車が道路の中央に飛び出して車と衝突するなどの事故を招きます。車道では左側通行を必ず守りましょう。

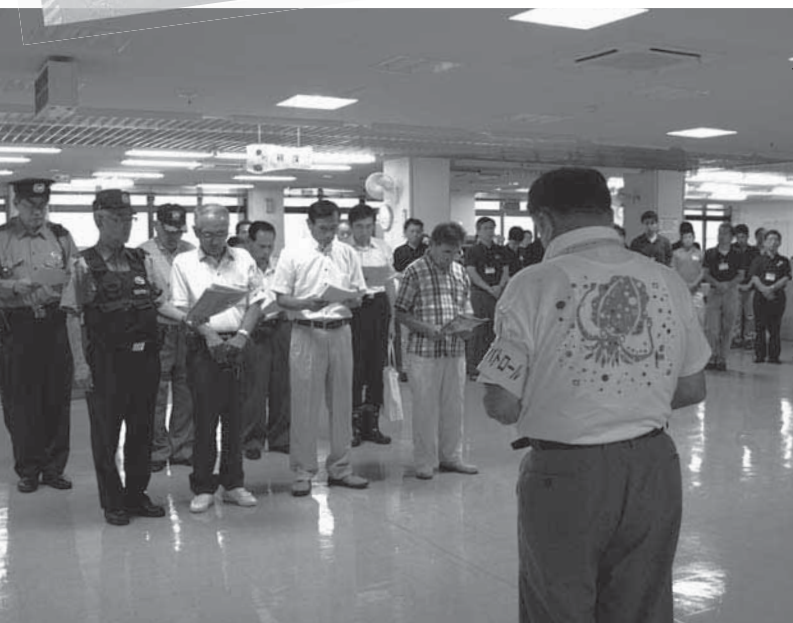
3「自転車走行ではいけないことって？」

『飲酒運転』『携帯電話』
『大音量のヘッドホン』
『並走』『無灯火』
『二人乗り』
…などの行為は、大変危険！

ルールを守って、安全で楽しい自転車ライフを！

自転車ルールを Check !

3 point ⇒



安全安心な町めざして

若狭町では、犯罪、事故、その他町民生活に悪影響を及ぼす不安、危険等を未然に防止し、町民が安全で安心できる社会の実現に向けた「安全で安心なまちづくり条例」が制定されています。

8月8日、この活動を促進するための「若狭町安全で安心なまちづくり推進会議」の会合が三方庁舎で開かれ、委員ら約20人が参加しました。

敦賀警察署や小浜警察署の署員から、刑法犯認知件数や、自転車の盗難が増えていること、詐欺の手口が巧妙化していることなどが報告されました。

その後、委員らは町内全域で防犯パトロールを行いました。出発式では防犯の啓発宣言を唱和し、防犯への意識を高めました。

こだわり花壇できました

8月8日、瓜生地区瓜生ふるさと公園の花壇で植付作業が行われ、瓜生地区地域づくり協議会の呼びかけで、地区の住民など7人が参加しました。

除草と根堀をした花壇に、福井県認定の花壇アドバイザー・見谷春美さんと内山征子さんの指導のもと、カンナ、サルビアなど約1000株を植えました。

福井県の「花のスクールステイ」の取り組みで、県内の小学生が育てた500株のマリーゴールドも一緒に植えられました。

花いっぱい運動推進委員の四方由紀子さんは、「今回、とてもよいタイミングで町や県の協力が得られ、花壇を設置することができました」と話しました。



Photo:Yukiko Shikata



灯りで浮かぶ宿場町

8月13日から15日にかけて、熊川宿一帯の道路沿いに陶器の灯籠が並ぶ「街かど陶の灯り展」が開催されました。今回で4回目となるこのイベントは、区民らでつくる実行委員会が開催しています。

灯籠は区民や陶芸教室「どろんこ会」が作ったもので、シンプルな円柱型から急須をかたどったものまで様々。文字やハート型にくり抜かれた灯籠は、どれも個性的でした。

約200個がずらりと並び、中のろうそくやLEDが陶器を通して優しい光を放っていました。訪れた観光客は、ひとつひとつ陶器を鑑賞しながら、町並みや川と一緒に写真に収めていました。



石を削って学ぶこと

8月23日、若狭町歴史文化館で「まが玉アクセサリーづくり」が開催され、親子連れら26人が参加しました。

歴史文化館サポーターと職員が指導に当たり、滑石という柔らかい石をコンクリートブロックや紙やすりで削って、思い思いの形の勾玉に仕上げています。石の角を取って丸くする作業が特に難しい様子で、大人も子どもも一心に石と向き合い、試行錯誤しながら作業をしていました。

出来上がった石は、蛍光ペンなどで色を着け、ビーズと一緒に革ひもに通してオリジナルのネックレスに仕上げました。サポーターさんは、「身体や石の感覚を使った作業は、生きる力をつけることに繋がるかもしれません」と、話してくれました。

がんばったから、おいしいよ

8月19日、三方小学校で毎年開催されている「夏休み食育教室」に、3・4年生約40人が参加しました。

子どもたちは、町の食生活改善委員会「菜ご味会」のメンバーの指導のもと、アジの焼き物、ナスのみそ汁、ごま油などで味付けするポリポリきゅうりの3品を作りました。

メインイベントの魚さばきは、まず一度お手本を教わった後、それぞれがおそろおそろ包丁を入れていきました。手取り足取り教わりながら、一匹さばき終わるたびに拍手がおこりました。

最後は完成したメニューを全員でいただきました。3年生の橋詰みゆさんは、「アジが一番おいしかった。魚をさばくのは初めてで、ちょっと難しかったけどおいしくできた」と満足そうでした。



「場を創る」を考える

8月27日、中央公民館で「若狭町小中学校研修主任等研究会」が行われました。これは町教頭会が主催の研究会で、校内研修を推進するミドルリーダーの立場にある先生方のレベルアップのために、今回初めて開催されました。

福井大学教職大学院非常勤講師の富永良史さんによる「学びあう対話の場の創り方〜ちがいのであいをたのしむ〜」と題したワークショップが行われ、町内小中学校職員26人が班ごとに分かれて“理想の校内研修会”を企画しました。

富永さんは「誰かが企画したものに対して、人は、自分には関係ないと思ってしまう。全員が当事者になる場を創ることが校内の活性化に繋がる」と語りかけました。



△瀬尾圭三さん

▽宇田葉子さん



これからもお元気で

8月25日から9月6日の間、高齢の方々のお宅に森下町長が訪問し、お祝い状と記念品を手渡し長寿をお祝いしました。今年の対象は88歳が129人、95歳が17人、100歳以上が14人の合計160人でした。

88歳の瀬尾圭二さん（岩屋）は日課の散歩と読書が楽しみだそうです。旧三方町の議会議員を3期務められ、土地改良にも奔走されました。岩屋の梨園をスタートさせたメンバーとしても活躍され、地域のために尽力されてきました。

同じく88歳の宇田葉子さん（大鳥羽）は、日赤奉仕団員や人権擁護員としてもご活躍されました。音楽、畑、ゲートボールと本当にご器用で多趣味な宇田さん。「健康の秘訣は好き嫌いをせず何でも食べることです」と話してくださいました。

非常時の力に！

8月29日、昨年9月の台風18号の反省を踏まえ、「若狭町災害ボランティアセンター連絡会」が発足し、その設立全体会が、加盟の18団体が集まって開催されました。

台風18号の折には、全国から集まった1222名の災害ボランティアが活動し、町内の浸水家屋の泥出しなどの作業を行いました。

その際、ボランティアの活動を支える災害ボランティアセンターは、社会福祉協議会が中心となって運営しましたが、役場との連携や、町内の各種団体との連携など、災害時の連絡体制がなかったことによって、さまざまな不都合がありました。

その経験を踏まえ、日常からの人的交流や、研修、資材確保などを含め、非常時に力となるための連絡会を設立することに至りました。

今後は、日常の交流はもとより、非常時にはセンター開設判断、運営判断なども行います。

会長は小西清光さん、副会長は吉田鈴枝さんに決まりました。

《加盟団体（全て若狭町内の団体）》

民生委員児童委員協議会・ボランティアセンター運営委員会・赤十字奉仕団・女性の会・南部地区若狭中部会局長会・NPOわかさReco.・環境安全課・福祉課・社会福祉協議会・区長会・公民館長会・地域づくり協議会・わかさ東商工会青年部・日赤無線奉仕団若狭分団



昨年の台風18号災害時のボランティアセンターと、ボランティアさんの活動の様子



盛りだくさんな夕涼み

8月30日、若狭町女性の会主催の夕涼み会が、上中体育館の駐車場を会場に開催されました。

会場には、各地区女性の会が準備したかき氷、フリーマーケット、そうめん、おもちゃなどの販売テントがずらりと並び、オープニングの午後6時を待たずに、多くの人が訪れました。

オープニングでは野木紅太鼓の威勢の良い音が響きました。続いて、会場に集まった子どもたちの浴衣コンテスト。浴衣を着て集まった子どもたち全員で記念撮影を行い、記念品を受け取っていました。

体育館から飛び出した五湖レンジャーに、子供たちの目は釘付けで、記念のお菓子を一人ひとり手渡してもらって嬉しそうでした。

盆踊りの音に合わせて、「鳥浜伝統文化を守る会」が準備したやぐらの周りに大きな輪ができ、盆踊りグループ「さくら会」も加わり、賑やかな盆踊りが繰り広げられました。

会場は、夕涼み会始まって以来最高の人出となり、今にも雨が降り出しそうな空は、降り出すタイミングを忘れていたようです。



Photo:Yukiko Shikata



おいしい！ジビエカレー

8月24日、三方小学校PTAと若狭町が連携したジビエカレーの試食会が三方小学校で行われました。この日はPTAの奉仕作業のあと、PTA会員らが調理したカレーが校舎前で振る舞われました。

このカレーは給食用に考案されたもので、子どもでも食べやすいよう、鹿肉はミンチ状に加工されています。鹿肉はニンニクと塩コショウで炒めてから野菜と合わせて調理され、さらに新鮮で鹿自体にストレスがないものを加工しているため、臭みなどが少なく食べやすい味になっているそうです。

試食をした会員や子どもたちからは、「鹿肉がカレーに合っていておいしい」と好評でした。





汗と笑顔が光っていました

今年で4回目となる若女将インターン。今回は全国から8名の女子大学生が参加しました。

8月4日から15日まで、海山、食見、世久見の民宿に2名ずつ分かれ、住み込みで接客、配膳や掃除など「若女将」としての仕事を体験します。

仕事の合間にはフェイスブックなどのSNSを通じて体験の様子を発信しました。

最終日の8月15日、ホテル水月花でインターン生による若狭町観光PRについての「提案会」が開かれました。インターン生たちはペアごとに、町の問題点やPR方法を提案しました。

「若漁師修行」と銘打った男性向けインターンを企画する、「LINE」を活用する、大学生協にパンフレットを設置するなど、若い感性が光る提案

が飛び出しました。

同会には、森下町長、若狭三方五湖観光協会長、受入宿のご主人、観光事業関係者などが参加し、質問も交えながらインターン生の発表に興味深く聞き入っていました。

食見の「民宿 長谷」で働いた折越彩さん（関西大学3回生）と甲斐絵理佳さん（お茶の水女子大学3回生）は、「家族の一員になって仕事を教わった感じ。朝早く、夜遅いのがこたえたが、ホームシックどころか帰りたくないくらいです」と話していました。

ご主人の長谷義彦さんは、「とてもハードな仕事だったと思う。バイト代を出さなければと思うほど一生懸命働いてくれて助かりました。お客さんにも喜んでもらえました。また遊びに来てほしい」と話してくれました。



集う！若手農業者

8月31日、福井県若狭青年農業者クラブ「ワカサアグリ21」のメンバーが古代米（黒米）の稲刈りを行いました。この日参加したのは、町内と小浜市の会員10人で、末野区の山間にある約4アールの田んぼに実った稲を手際よく刈り取りました。収穫した米は、イベントなどでの餅つきに使う予定です。

稲刈りが終わると、かみなか農楽舎でバーベキューと音楽ライブを行い、地元住民と親睦を深めました。

神谷の農園で働く深川寛朗さんは、「ワカサアグリの仲間は、ほとんどが かみなか農楽舎の卒業生です。今日のようなイベントではアットホームな空気を楽しんでいます」と笑顔を見せてくれました。

心をひとつに一歩一歩

8月21日から23日、第15回チャレンジウォークが行われ、町内の小学生26名と、中学・高校生のジュニアリーダーや町職員などが参加しました。

今年は上中庁舎から京都府舞鶴市までの約55kmの道のりを、3日間かけて歩きました。

21日の朝、上中庁舎で結団式を行い、保護者たちに見送られながら元気に出発しました。曇っていた天気も徐々に太陽が顔を出し、気温は一気に上昇。子どもたちは暑さや湿度と戦いながら一歩一歩懸命に歩いていました。

辛くなってきた時は、ジュニアリーダーのリードで「コール」というかけ声をかけ合ったり、歌を歌ったりして気合いを入れ直します。

休憩のために立ち寄った神社などの旧跡では、ジュニアリーダーがその場所について解説し、案内役をつとめました。休憩のたびに子どもたちは、干し梅などで塩分を摂る、水分は少しずつ摂るなど、暑さと疲れへの対策を体で学んでいました。

コース上の集落では、応援の大人たちが子どもたちを見守っていました。

気山小学校6年の武長風花さんは、「友達に誘われたのがきっかけだったけど、とても楽しかったので今回で3回目です。坂道はきついけど、コールがあるからがんばれる。毎回体力がついているのも実感できるし嬉しい。一番楽しみなのは、夜のテントでのお喋り。今度はジュニアリーダーとして参加したいです」と話してくれました。



満喫！若狭の海

8月31日、「若狭路オープンウォータースイミング2014」が世久見海水浴場で行われ、県内外から300人以上の選手が参加しました。

オープンウォータースイミングは、海や川など自然の水で行なわれる長距離の水泳競技。今回の大会は「自然に大の字 あそぼーや」が主催し、世久見区観光組合や同区などの協力のもと、豊かな若狭の自然を楽しんでもらう大会として開催されました。

コースは、無人島の『鳥辺島』を往復する3.8kmと、『鳥辺島』から浜までの片道1.3kmが設定されました。選手はそれぞれ力強い泳ぎを披露し、全員が完泳。

浜には地元の特産品などのブースが並び、参加者は若狭の海と味、地元住民とのふれあいを楽しみました。



原 子 力 防 災 訓 練

8月31日、高浜原発での重大事故を想定した福井県原子力防災訓練が行われました。

町内では野木地区が30km圏内の避難対象となり、小浜市の松永地区の人たちとともに、上中庁舎に設置されたスクリーニング場所への避難行動を行いました。

訓練は、午前6時45分、高浜原発3号機が全交流電源を喪失し、冷却機能を失った原子炉から放射性物質が放出されたとの想定で行われました。

午前8時30分に屋内有線放送と広報車により、野木地区住民の屋内退避の指示が流され、地区消防団が地域を回って、屋内退避を呼びかけました。携帯電話のエリアメールも配信されました。

午前10時、放射性物質が放出されたとされ、屋内退避から避難指示に切り変わり、野木地区の訓練参加者40名は、8名が自家用車、残りが野木小学校に集まり、県の用意したバスで避難を行いました。

避難者は、安定ヨウ素剤の受取場所である野木公民館に立ち寄り、車の窓越しやバスの車内でヨウ素剤の使用説明を受け、ヨウ素剤を受け取って、スク



リーニング検査場所である上中庁舎へ移動しました。

上中庁舎では、車両のスクリーニングを行い、車両に放射性物質の付着があった場合は、乗車していた人の代表が検査を受け、その人に放射性物質の付着があった場合は、乗車していた人全員が検査を受けるという基準が設けられていました。

人に付着が認められた場合には、付着部分を水で洗い流して、再度検査を受けます。これを付着反応がなくなるまで繰り返すということでした。

スクリーニング終了後は、庁舎2階で放射線に関する講演や、災害用伝言ダイヤルの紹介ブースが設けられ、屋外には、県が所有する車載ホールボディーカウンターも展示されました。

参加した野木地区の人からは、「初めてのことで、改善していくことも多いけど、やらんよりマシやな」「ほんまになったら人も多し、もっと混乱するやろなあ」という声もありました。

あってはいけない原発事故ですが、いざというとき、自分はどう動き、どこで何が行われるかは、あらかじめ知っておかねばならないと思いました。

★住民リポーターさんの似顔絵：岡本サキン

★住民リポーター随時募集中！お気軽にご連絡ください

NPO わかさ Reco.Tel: 050-3701-8341 Fax: 050-3730-7496

Facebook ページ：「わかさのススメ」